

## 屋外に出る幻覚を生じたインフルエンザの14歳男児の1例

いずみ  
泉のぶ  
信 夫

キーワード：インフルエンザ，中学生，異常行動，半覚醒睡眠随伴症

### 要 旨

14歳男児。2007年2月13日夕より微熱がみられた。14日午前中にインフルエンザB型と診断した。タミフル1capの2回目を服用して入眠し、約2時間後に思いつめた表情で「助けて、外に出ないといけない」等をつぶやきながら起き出し部屋から出ようとした。母親の力では止めかねたが父親の平手打ちで我にかえた。自分の行動を不思議に感じていた。映像の記憶はなかった。タミフルは5日分を服用したが再現はなかった。8歳頃まで夢中（睡眠時）遊行がよくみられた。10歳にA型に罹患しアマンタジンを服用したが何事もなかった。半覚醒睡眠随伴症の関与が考えられ、「二人の自分」の意識が興味深かった。

### はじめに

2006年～2007年のインフルエンザ（以降，Flu）の流行は開始が遅く、ゆっくりと拡大する特異な経過を示した。この間、タミフル®（リン酸オセルタミビル）を服用した患者の異常行動が問題となり、10代の本剤使用が原則差し控えに至ったことは記憶に新しい。

だが、タミフルは年少児や高齢者にとっては重要であり、10代の重症疾患患者のFlu罹患も考えられる。多臓器親和性をもつ新型Fluが出現した際には現在のところ最良の薬剤と考えられて

おり、10代も患者との接触で服用することになり、服用後の発症もありうる。

タミフルと異常行動との因果関係を明らかにするのはもちろん、原因であるなしに関わらず、異常行動の実態を明らかにし、対応策を確立することが求められる。屋外に飛び出した外傷例も少なからず知られているが、このような例を一例でも多く、できる限り詳細に記述しておきたい。

筆者も、睡眠中に起き出し、屋外に出る幻覚を伴った衝動的行動を示し、父親の平手打ちで我にかえた症例を経験した。

### 症 例

症例 14歳6ヶ月男児

経緯 2007年2月14日FluB型に罹患した。厚労